

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）
 「Journal of Reproduction and Developmentの国際的な情報発信力を強化し、基幹ジャーナル化を目指す取組」
 （課題番号：17HP2009）

学術団体名：公益社団法人 日本繁殖生物学会
 学術刊行物の名称：Journal of Reproduction and Development
 事業期間：平成29(2017)年度～令和3(2021)年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本繁殖生物学会は、アジア最大の繁殖生物学学会である。その機関誌 Journal of Reproduction and Development (JRD) 誌は、世界でも唯一の完全オープンアクセス繁殖生物学学会誌であり、すでにPubMed掲載、国際標準の編集・審査システム整備 (ScholarOne)、PubMed Central へのonline転載と順調に国際発信力を高めてきた。本取組は、JRD 誌のオープンアクセス機能を最大限に利用し、JRD 誌の世界的な基幹ジャーナル化により、我が国の優れた繁殖生物学の成果の発信力をさらに高めることを目指すものである。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

1. 海外の編集委員の比率を高める(5年目までに33%)とともに、学際性も意識した編集委員体制を構築する。
2. 外国人レフェリーの割合を5年目までに30%をめざす。
3. 総説の掲載数を年間15報以上の掲載をめざす。
4. 世界へ優れた成果を発信するために、日本語総説の英語化を1報/年を行う。
5. 毎年、3つ以上の国際学会でJRD誌の広報活動を行う。
6. インパクトファクター(IF)を3年目に1点台後半、5年目に1.9-2.0点まで上昇させる(繁殖生物学分野のトップジャーナルはIFが3前後)。



2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

1. 海外の編集委員は、3年目に11カ国におよぶ31%(25/81)まで増加しており、5年目の目標33%は達成される見込みである。医学、分子生物学などの国内外7人を編集委員に加え、学際的な編成も達成した。
2. 海外レフェリー率は2年目に29%(64/221)に到達しており、5年目の30%は達成される見込みである。
3. 総説は、1年目12件、2年目13件であった(年間15報の掲載目標に2-3報不足)。
4. 1年目、2年目に1報ずつの日本語総説の英文化掲載を行い、目標を達成した。
5. 毎年3つ以上の国際学会で広報活動を行い、目標を達成した。
6. IFは、1年目 1.42から2年目 1.64、3年目に1.50と目標通り1点台後半へ入っている。

・今後の計画

上記1、2、4、5の活動は、これまでの活動を続けることにより、目標は達成される予定である。3. の総説数は、国内和文学会誌の協力を得るなど和文総説の英文化を年2-3報進めることにより達成できる予定である。6. のIFは、目標通り1点台後半に入ったが、5年目の1.9の達成のために、4報に1報の引用1回増加が必要となる。HTMLのダウンロード数および総引用数の伸び(右図)が反映されるように、審査の厳格化を行なうとともに、本取組における魅力的な総説の掲載、国際学会での広報活動などをさらに強力に進める予定である。

